

博士論文 平成28（2016）年度

【要約】

現代ボリビアにおける新しい「ネーション」の生成

—アフロ系ボリビア人の事例から—

慶應義塾大学大学院 社会学研究科

梅 崎 か ほ り

1) 序論：アンデス社会とアフロ系住民

標高 3,700m に位置するボリビアの首都ラパス。どこまでも青く抜けるような空に、険しい稜線を描く冠雪の山々が連なる。20 世紀の終わり、山高帽の先住民女性が行き交うこの町並みに、ケーナの高く澄んだ音色とも、風を切るような葦笛シークの音とも似つかない重低音が響き渡った。大小様々な太鼓をたたき男たちと、髪を無数の三つ編みにした女たちが大地を踏みしめて練り歩く姿は、当時の町の人々に新鮮な驚きを与えたに違いない。うねるようなリズムとハスキーで野太い歌声が紡ぎ出すアフロ系ボリビア人の「サヤ」は、今やボリビア文化を彩る個性の一つとして広く知られるところとなった。都市の祝祭で、またはライブハウスで、人々はサヤに喝采をおくり、時に自分たちも一緒になって踊りだす。アンデス文化圏のボリビアでこのような光景が日常のものとなったのは、実はここ 20 年たらずのことなのである。

アンデス世界は、インカ帝国を土台としたスペイン植民地時代を経て、20 世紀以降は先住民性にルーツを求める国家形成が模索されてきた地域として知られる。アカデミズムにおいても、常に征服者スペイン人と被征服者インディオのせめぎ合いが焦点とされてきた。このような枠組みの下、ヨーロッパ中心史観が批判され、同時に、先住民運動についての研究も内外で数多くの成果を上げてきた。また、人類学や文化史においては、先住民世界とスペイン世界との融合や共存が文化実践においてどのように反映されているかといったことが議論の中心となり、先住民の生活や言語について、フィールドワークに基づく優れた民族誌が発表されてきた。このような傾向はボリビア研究においても例外ではなく、1952 年に起きた革命以降のボリビア研究の多くでは、自分たちの価値観の下に国家を統合しようとする「白人のボリビア」と、それに抵抗する「先住民のボリビア」という構図が強調される。2006 年にボリビア史上初の先住民大統領を擁するエボ・モラレス政権が誕生したこともまた、先住民勢力が従来の権力構造を覆したとして、世界の注目を集めることとなった。

しかし、このような二項対立的な捉え方によって、スペイン系・先住民系の人々と共にボリビア社会を形作ってきたもうひとつの社会集団、すなわちアフロ系の人々の存在が見落とされてきたことも事実である。本研究が扱うアフロ系の人々は、植民地時代には奴隷制の下でその人格を否定された存在として、また、独立後の国家形成においてはその存在が忘却され、長らくボリビア社会の周縁に生きることを余儀なくされた集団である。

2009 年の新憲法で「複数ネーションの国 (Estado Plurinacional)」となったボリビアにおいて、ようやくひとつの「ネーション」として先住民と肩を並べた彼らであるが、被征服者としての共通性や混血の歴史を理由に先住民と同じ枠に収めることはあまりに

安易である。他方で、アフロ系の人々を「先住民のボリビア」とは無縁の特殊な存在として捉えるならば、彼らの生きてきた歴史、そして彼らを内包するボリビア社会に対する見方は偏ったものとなるであろう。ボリビアにおいてアフロ系の人々は、ときには忘却され、ときには先住民と同一の枠にはめられ、しかしときには自らを固有の集団と自覚させられるような、複雑な集団的アイデンティティを築いてきた人々である。彼らはまた、多文化主義を掲げた「白人のボリビア」が、包摂と排除のからくりで「先住民のボリビア」を統合しようとしていた 90 年代に、いち早くその矛盾に対し声を挙げた存在でもある。

本研究の目的は、このようなアフロ系ボリビア人の現代史に着目し、彼らが築き上げ表出する集団的アイデンティティの変遷を丁寧に記述することである。これによって、二元的ボリビア観の相対化を試みるとともに、モラレス政権による新しい国家形成のプロセスを、「アフロボリビア」という新しい「ネーション」の視点から捉え直そうとするものである。

2) 各章のまとめ

本論第一章および二章では、ボリビアの国民国家形成の過程でアフロ系住民が排除される経緯と、その中で国民文化の一つとして形成された「国民音楽」への異議申し立てを皮切りに都市のアフロ系住民が展開した文化運動の経緯を詳述し、その後の議論の背景としてまとめた。また、この文化運動をボリビアの音楽界がどう受け止めたかを詳細に分析することで、本論の要ともなるアフロボリビアの音文化サヤがボリビア社会に与えたインパクトを明らかにした。

現代ボリビアのアフロ系住民は、スペイン人征服者たちによって強制移住させられた黒人奴隷の子孫である。革命以降のボリビアで、先住民性の再評価によってナショナル・アイデンティティが模索されるなか、植民地時代後期より首都ラパスの北東に広がる溪谷地帯ユンガスに集住していた少数のアフロ系住民は、社会的にも、統計上からも、また文化面においても、主体性を奪われた存在として不可視化されていった。

都市への進出を機に自らの置かれた立場を自覚したアフロ系住民は、ユンガスで継承されてきた独自の音文化サヤを用いて文化運動を展開する。異議申し立てのきっかけは、「われわれの文化サヤ」が、都市で流行する「国民音楽」の中で非アフロ系によって書き換えられ、「サヤ」の名を背負って広まったことであった。1988 年、首都ラパス市に住む若手のアフロ系ボリビア人は MOCUSABOL（アフロボリビアのサヤ文化運動）を組織し、サヤの実演を繰り返しながら、マスコミを利用した訂正要求を始める。「国民音楽」のブームに乗る形で展開されたこの運動は注目を集め、サヤはアフロボリビアの文

化として広く認知を獲得し、それによりアフロ系ボリビア人の存在そのものもまた広く認知されることとなる。このような経緯から、アフロ文化の認知と受容を目的としていた運動はやがて、アフロ系住民の存在そのものが歴史的に周縁化されナショナリズムの中で不可視化されてきたことに対する抗議運動の性格を強めていく。

第三章および第四章では、この文化運動を通してにわかにボリビア社会に浮上した「アフロ系ボリビア人」の集団意識の形成について、彼らの文化運動の要となったサヤを手がかりにその経緯を分析した。第三章では、奴隷解放後も彼らの集住地域となったラパス県北ユンガス地方トカーニャおよび南ユンガス地方チカロマにおける聞き取り調査と歌詞の分析をもとに、アシエンダ地主や同地域のアイマラ系先住民と共生し、混血を繰り返すなかで内面化された「ユンガスのネグロ（黒人）」としての混淆的な「われわれ」意識を明らかにした。そこでは、村の年長者たちが生きた時代の記憶、つまりアシエンダでの労働の日々や領土紛争の時代を生きた記憶が歌い継がれ共有されていた。守護聖人への信仰心や土地への愛着が織り込まれたサヤの実践を通して、ユンガスという土地に根ざしたアイデンティティが内面化されてきた実態も明らかになった。ユンガスでは、ネグロとアイマラの間でコカ農民としてのアイデンティティが緩やかに共有される一方、聖人祭などの文化実践の場では、サヤが「われわれ」と「他者」との境を明らかにし、同時に「他者」との関係構築の手段として用いられてきたことも判明した。このことは、都市のアフロ系住民の復権運動がサヤを通して展開されたことや、後に記憶や土地との結びつきを拠り所とする「ネーション」形成が模索されたことを説明するものである。

第四章では、第二章で扱ったサヤ運動を内側から掘り下げることで、都市のサヤ運動で形成された新たな「われわれ」意識を明らかにした。MOCUSABOLの活動を通して歌われるサヤの歌詞には、黒人奴隷制の歴史、現代のアフロ系住民が対面する差別や不平等の告発、サヤや自文化の称揚が積極的に盛り込まれている。これを繰り返し実践することは、外部社会への異議申し立ての声となっただけでなく、サヤの実践者に自身の歴史認識や、国家および自らが置かれた社会状況に対する問題意識を再確認させ、それを運動の参加者の間で共有させる役割を果たした。このようなサヤの実演と平行して、若い世代の自尊心の育成を意図したワークショップも実施された。1994年に多文化主義政策をかかげた政府のもと、アフロ系住民はこの運動を通して「ネグロ」という自らの呼称を「アフロ」に改め、「われわれ」の文化の固有性と国民としての権利を主張しながら、「アフロボリビア人」としての連帯感と集団的アイデンティティを確立していった。21世紀に入り、ボリビアが政治的転換点を迎えるなか、運動はより政治的な意図を含むものへと発展していく。

第五章では、モラレス政権成立から新憲法制定にかけてのボリビアの社会変革のプロ

セスのなかで、国政の動向を敏感に察知しながら、より強固な「ネーション」としての形を模索していく今日のアフロ系住民の姿を明らかにした。脱植民地化と相互文化的社会の形成を掲げた「複数ネーション国家」という新しい体制のもと、ボリビアのアフロ系住民は「アフロボリビア人」という一つの「ネーション」として承認された。それにより彼らは、ユンガスに根ざす「われわれ」としての歴史を振り返り、国内の大部分を占める先住民と同様に「先住性」を主張することで、新しい国家において揺るぎないアイデンティティの確立を目指し、政治的主体性を主張しはじめる。さらに、国会議員を輩出し、より直接的な政治的発言権を得たことを背景に、2011年には全国のアフロ系住民を代弁する史上初の統一組織 CONAFRO(アフロボリビア全国審議会)が結成された。

第五章の最後に、都市の運動を中心に政治的に形成されていく「われわれ」意識が具体化するに従い、地域や世代によって「われわれ」意識に齟齬が生まれる様子にも注目した。「われわれ」らしさの画定にあたり露わになったジレンマは、ひとつの「ネーション」としての集団形成の難しさを物語るものでもある。しかしながら、その重層的なアイデンティティを柔軟に解釈することで築かれた国内の先住民組織との連帯が、彼らに「先住性」の主張という着想を与え、モラレス政権下で先住民集団と対等な立場に立つ可能性を開いたことは疑いない。一方で、その間ずっとアフロ系ボリビア人の「われわれ」意識を支えてきた音文化サヤは、彼ら独自の政治手段として鍛え上げられ、集団的アイデンティティの強固な土台となった。このようにして育まれた「アフロボリビア人」だからこそ、政府の掲げる「脱植民地化」と「相互文化性」を体現する新たな「ネーション」となり、21世紀のボリビアで政治的主体性を獲得し得たのだと言える。

3) 結論：ボリビア多民族国における新たな「ネーション」のかたち

以上、アフロ系ボリビア人の集団的アイデンティティの動態を描く中で明らかとなったいくつかの重要な論点を最後にまとめ、本研究の結論としたい。

まず始めに指摘したいのは、上からのナショナリズムが常に先住民のみを意識し、アフロ系の人々を取り残してきたことが、先住民ではない彼らの文化運動の引き金となったということである。

1950年代の同化政策は、すでにスペイン語話者であったアフロ系住民にはさしたる影響を及ぼさず、むしろ彼らにとって、農地改革で賦役労働から解放されたことや、同化政策によって教育を受ける機会を得たことは肯定的に評価されてしかるべきものであった。しかし、ボリビアに「国民音楽」というジャンルを生んだ文化的ナショナリズムは、アフロ系の人々に、ボリビア社会で周縁化された自らの立場を自覚するきっかけを与えることとなる。さらに、1990年代の多文化主義政策からも取りこぼされたことが、その

後の急速な復権運動の展開に繋がった。もしアフロ系住民が早々に政府によって存在を認知されていたならば、あれほど熱心な文化運動は起こらず、政治的争点をもたないマイノリティにとどまっていたかもしれない。

加えて、アフロ系ボリビア人の社会運動が、政府ではなくボリビア社会に、つまり非アフロ系の、ボリビアの日常を生きるふつうの人々に対して、歌を通して働きかけるところから始まったという点も見落としてはならない。それが直接的な政治活動や一ボリビアでは一般的手段であるところの一デモ行進や道路封鎖などではなく、サヤという文化実践によって行われたからこそ、政治的競合を警戒させることも、過激な民族グループとして敬遠されることもなく、温和に好意的に、かつ強い印象を残してボリビア社会に受け入れられた。これは政府の妥協と包摂のプロセスとは明確に区別されるものである。この経験がなかったならば、多民族国となった今日のボリビアにおいて新たな「ネーション」を形成し、さらには先住民集団と肩を並べて政権に参画することなど、夢のまた夢であったに違いない。

次に指摘したいのは、この一連の流れこそが、現在のアフロ系住民に「ネーション」としての意識を芽生えさせ、「アフロボリビア」という新たな集合的アイデンティティを構築させたものであるということである。アフロボリビアの社会運動は、国家レベルの政治に参画しようというような明確な意図を持たない文化運動が、太鼓をたたき、歌を歌い、踊りを踊るという行為を通じて、自尊心と集団の意識を芽生えさせ、人々の意識のあり方を変えていったものである。

ユンガス地域に定住したアフロ系住民は、その地域の住民であったアイマラおよびアシエンダの地主たちとの共生のなかで「ネグロ (negro)」と呼ばれ、そのように自己認識しながら、言語や生活スタイルとともに混血化の道を辿った。農地改革の後、都市に出たアフロ系住民は、そこに創出された「先住民的な」ボリビアを目の当たりにするとともに、主流となった「先住民的な」国民文化において他者化される自己と、「歴史的遺物としてしか認識されないわれわれ」を自覚する。そして、多民族・多文化の承認と権利付与への流れのなかで、「アフロボリビア」という一つの集団的アイデンティティを自ら築き上げたのである。

それは、本来は人種の符号であった肌の色を共有するという自覚のみならず、その他の様々な自己意識を獲得していくプロセスであった。それは、奴隷制の歴史を共有するアフロ系の子孫であるという意識であり、ユンガスを自らのルーツとする土地への帰属意識であり、また、先住民の隣人であるという意識、自分たちもボリビアという国家の一員であるという意識、そして、サヤを使った文化運動で回復した自尊の意識である。アフロ系ボリビア人の「われわれ」意識は、このように様々な意識の混淆性と重層性を

土台とするものである。そしてこれこそが、現政権による「複数ネーション国家」建設にあたり、国内各地に散らばるアフロ系住民の連帯と組織化を可能にしてきたものである。つまり、政府による上からのナショナリズムは、その意に反して先住民の政治意識を高めただけでなく、想定すらしていなかったアフロ系住民の自己意識をも芽生えさせ、体裁だけの多文化主義では包摂できないエネルギーを作り出してしまったことになる。

同じ地域に同じ目的をもって集団を形成しても、人間が個々に生活を営む以上、また、近代の社会システムのなかで生きる以上、アイデンティティは決して単純で固定されたものではありえないと私は思う。アフロ系ボリビア人の集団的アイデンティティは、国政の変遷を自らの方法で解釈し応答を模索してきたマイノリティの、近代国民国家への新たな異議申し立てと解釈することができる。

本研究がこれまで明らかにしてきたように、重層的で揺らぎのあるアイデンティティに基づく集団が「ネーション」として組織化されることには当然ながら困難が伴い、「ネーション」としての政策決定の一つ一つが様々な軋轢も生んだ。ボリビアの歴史を鑑みれば、このような困難は他の多くの「ネーション」にも共通するものであるに違いない。しかしながら、このように柔軟に解釈される「われわれ」意識こそが、今日のボリビアで植民地化の歴史を共有する他の様々な「ネーション」との連帯を可能にしたものでもある。固有でありながらもなお柔軟である「ネーション」の姿は、同化ではない連帯による国家形成の可能性を、今日の世界に問うている。そしていまだ無数に存在するマイノリティ集団、かつてのボリビアのアフロのように、近代国民国家の枠組みのなかで常に忘却されてきた数多の人々に、一つの新しい可能性を示しているといえる。

もちろん、モラレス政権による改革は未だ途上であり、数多くの問題を抱えていることも事実である。2016年の初頭には、モラレス大統領の2020年再出馬をめぐる国民投票が行われ、僅差とはいえ就任以降初めての敗北を喫した。現在モラレス政権は3期目の途中であるが、政策の失敗やほころびを指摘する声は増加の一途を辿る印象である。それでも、現場に降りてみれば、モラレス政権が行った脱植民地化政策の意図が汲まれ、過去には想像することさえ不可能であった「先住・原住・農民の諸民族および諸集団」そして「アフロボリビア人」の政治参加が実現し、そのための法制度の整備や脱植民地化のための教育改革等が具現化されつつあることは見落とせない事実である。

抑圧の歴史の中で、常に周縁化され、または不可視化されてきた人々が「ネーション」として組織化され、それらの集合体で国家を作り直そうとする動きを、植民地支配から今日に到るまでの500年という大きな歴史の流れに位置づけるならば、それは明らかに新時代の到来を示唆するものである。そしてこの新時代に主導権を取り戻しつつある人々が、「複数ネーション国家」というかたちの改革を選んだことは、近代化以降の世

界史においても、新たな一章の始まりであると言えよう。

4) 参考文献

インタビュー・その他音声資料¹

ルイス・リコへのインタビュー

CT- LR030922

EM- LR041229; LR050115

ロランド・カマチョへのインタビュー

MD- RC040825; RC040827

FUNDAFRO へのインタビュー

MD- FA040824; FA040831; FA040901

EM- FA041128; FA041204; FA050115

ホァン・アンゴラ (FUNDAFRO) へのインタビュー

IC- AN100825; AN110919; AN160307

MOCUSABOL へのインタビュー

MD- AT040829; EB070925; IN070926

ハイメ・フローレス (MOCUSABOL) へのインタビュー

IC- JF110920

NT- JF161208; JF170211

ホァン・カルロス・バリビアン (CONAFRO) へのインタビュー

IC- JC100830; JC110919; JC130909; JC160303; JC160307

ネンリー・バスケス (CONAFRO) へのインタビュー

IC- NR150309

アフロボリビア全国会議その他アフロボリビア関連の会議・イベントにおける録音

IC- CN110902; CN110903; CN120907; CN120908; DF130910; MB160226

トカーニャにおけるインタビューとサヤの収録

MD- ZA040817; TC110820; ZA110821

チカロマにおけるインタビューとサヤの収録

MD- JL060614; MZ060704; MZ060709; SJ060802; SC060803; EA060806;

¹ CT: カセットテープ、MD: ミニディスク、IC: IC レコーダーに収録した音声資料。EM: 補足的に email で行った質問への回答。NT: 録音機を使用せずに行った対面または電話による会話のノート。長期の関係構築に基づく個人へのインタビューには個人名を、組織の事務所にて飛び込みに近いかたちで行ったインタビュー (対個人・対複数人を含む) には組織名を見出しに付した。なお、トカーニャ及びチカロマにおける録音には、筆者との距離感が多様な対個人・対複数人へのインタビューの他に、歌詞の収録や祭りの録音を含む。

FL060816; YA060818; JB060829; TB060830; DB080908; TB080908;
RP070922
IC- JL100807; YA100831

機関誌、パンフレットほか社会組織発行の文書および公文書等

CONAFRO (Consejo Nacional Afroboliviano).

2014. *Plan estratégico 2014-2024*.

FUNDAFRO (Fundación de Afrodescendientes Pedro Andaverez Peralta).

2000(a). *Boletín afro boliviano: Año 1, No.1*. La Paz: Integración Negra Yungueña
“Pedro Andaverez Peralta”.

2000(b). *Boletín afro boliviano: Año 1, No.2*. La Paz: Integración Negra Yungueña
“Pedro Andaverez Peralta”.

2003. *Raíces: No.1 (2003/10)*.

2005. *Raíces: No.2 (2005/08)*.

2003/12/01. Prefectura del departamento de La Paz: Carátura notarial: Notaria de
gobierno, Testimonio No.230, en favor de FUNDAFRO-PAP. (FUNDAFRO 設
立承認書)

MOCUSABOL (Movimiento Cultural Saya Afroboliviano).

1990. *Mi pueblo en la capital: Expresión genuina de las comunidades de raza
negra de Los Yungas de La Paz*. La Paz: Prefectura del departamento de La
Paz- Bolivia.

2001(a). *I. Situación actual de las comunidades afros*.

2001(b). *II. Planificación estratégica*.

2003. *Boletín Afroboliviano No.1. “Fortalecimiento del Movimiento Cultural Saya
Afroboliviano en la sociedad civil.”*

2007 *Boletín Afroboliviano No.3. “Propuesta del pueblo afroboliviano en la
Asamblea Constituyente.”*

Pacto de Unidad (PU). 2006. “Propuesta de las Organizaciones Indígenas,
Originarias, Campesinas y de Colonizadores hacia la Asamblea Constituyente.
Sucre. (統一協定による憲法制定議会への提案書)

(<http://bibliotecavirtual.clacso.org.ar/ar/libros/osal/osal22/AC22Documento.pdf>)

Pastoral de las comunidades negras afrodescendientes de Bolivia, Cochuna, Coroico,
10 al 12 de agosto de 2003, Conferencia episcopal boliviana, Secretariado de

culturas. (コロイコ司教区報告書)

新聞・雑誌・報道²

Bolivian Times, La Paz

Ceaser, Mike, “Afro-Bolivians look for lost heritage”, 2000/03/23.

BBC Mundo.

“Bolivia ya tiene su rey negro”. Andrés Schipani. 2007/12/04.

(http://news.bbc.co.uk/hi/spanish/misc/newsid_7126000/7126777.stm)

Cambio: Periódico del Estado Plurinacional de Bolivia. La Paz.

“Cinco pueblos indígenas fijan sus propias fechas electorales.” 2010/03/13.

El Deber. Santa Cruz.

“Afrobolivianos, una historia sin contar.” Carmen Pérez Carrillo. 2003/06/15.

El Diario. La Paz

“La saya no es el único ritmo negro de Bolivia.” 1997/10/29.

“Comunidad afro-boliviana se siente relegada y marginada.” Roberto De Cruz/
Juan Angola Maconde. 2001/09/24.

El Mundo. Santa Cruz.

“La comunidad yungueña en Santa Cruz.” 2003/09/14.

“El proceso de cambio permitió que tres afrobolivianas sean candidatas.”
2014/09/07.

La Prensa. La Paz

“Los afrobolivianos serán reconocidos como etnia.” 2006/04/27.

“La danza yungueña recibió ayer el título de patrimonio cultural: Afrobolivianos festejan por la saya.” 2007/04/21.

“El Conafro se plantea 7 objetivos al crearse.” Wendy Inarra. 2011/09/06.

“Hay división entre los afrobdescendientes.” Wendy Inarra. 2011/09/15.

“Afrobolivianos: Rebelión negra.” 2003/08/24.

La Razón, La Paz

“Bolivia aún excluye a la población negra.” 2001/07/19.

“Los afros legislarán por primera vez.” Germán Rojas. 2009/12/27.

“Pueblo boliviano.” Farit Rojas Tudela. 2013/12/09.

² 執筆者が明記されている記事には執筆者名を付した。

“Acerca del Estatuto Autonómico Departamental de La Paz.” Alan E. Vargas Lima. 2015/09/09.

“Representante del pueblo afro es designado adjunto del Defensor del Pueblo.” Carlos Corz. 2016/06/13.

Noticias de Bolivia (Fm Bolivia). La Paz.

“Fernando Cajías: Pueblo afroboliviano logró pasar del discurso cultural al discurso político y social.” 2012/12/12.

(<http://www.fmbolivia.tv/cajiaspuebloafrobolivianologropasardeldiscursoculturalaldiscursopoliticoysocial/>)

¡Oh! (La Prensa). La Paz.

“El color que Bolivia ignora.” Javier Méndez Vedia. 2005/08/07.

Opinión. Cochabamba.

“Proponen crear el primer municipio afroboliviano.” 2012/12/02.

Página Siete. La Paz.

“UPEA cambia baile ‘negritos’ por saya.” Anahí Casas. 2010/11/14.

Presencia. La Paz.

“Oruro carnaval: Historia y tradición.” Josemo Murillo Bacarreza. 1997/02/08.

Revista Escape (La Razón). La Paz.

“Bailar en libertad.” Sergio Chisaka. 2002/09/01.

“Afrobolivianos, 151 años libres, pero no iguales.” 2002/11/24.

Red., “El Dorado Chico”, No.163, 2004/06/27.

Senda yungueña. Yungas, La Paz.

“Con perdón de ‘Los Kjarkas’ ¿cuál ‘ritmo negro’?” Guimmer Zambrana. 1995/06/10a.

“El origen de la morenada.” Jorge Mansilla Tórrez. 1995/06/10b.

Última Hora. La Paz.

“Minoía afro-boliviana pide reconocimiento de derechos.” 1994/12/03.

映像資料³

Ayopayamanta. *Lo mejor de su música en video clips*. Cochabamba: C.C.R. 1996. (VHS).

³ URL を付した映像作品についてはすべて 2017 年 2 月 1 日にアクセス確認済み。DV は筆者撮影。

- Carnaval de Oruro 2002 (en vivo)*. Canal 7. 2002. (VHS).
- Censos de las etnias existentes “Negros de Tocaña”*. Instituto Boliviano. 1986 年頃.
(MUSEF ビデオライブラリー収蔵 VHS ※館内視聴)
- Cultura afroboliviana en El Ojo del Alma*. La Paz: ATB. 2013.
(<https://www.youtube.com/watch?v=U9TlZiz2CcM>)
- Encuentro de Comunidades Negras al Ritmo de Saya*. MUSEF. 1998. (VHS).
- "Gayingo" documental sobre la historia y tradiciones de Chicaloma-Yungas Parte I*.
La Paz: Redunitas. 2014.
(https://www.youtube.com/watch?v=Eg87_vN2-7c)
- Fiesta Afroboliviana Virgen de Tocaña Los Yungas 2013*. Arica: Lumbanga.
(<https://www.youtube.com/watch?v=FE8GHAiGn4U>)
- Carnaval de Oruro para el Mundo*. MUSEF. 2003.
- La Voz de sin Voz Vol.4: Afrobolivianos*. Dirección de Asuntos Culturales de la
Cancillería Argentina. 2009.
(<http://lavozdelossinvoz.gov.ar/musica/vol4/04.html>)
- Los negritos de Bolivia: descendientes de africanos con vidas aimaras*. Lima:
Panamericana. 2012.
(<http://panamericana.pe/eldominical/internacionales/110089-negritos-bolivia-descendientes-africanos-vidas-aimaras>)
- DV-EQ030911: ラパス市「エキノクシオ (カフェバー)」での MOCUSABOL ライブ.
- DV-TC040814: 北ユンガス郡コロイコ区トカーニャ 2004 年アスンタ祭.
- DV-CH060610: 南ユンガス郡イルパナ区チカロマ 2006 年グラン・ポデール祭.
- DV-IR060804; IR060805: 南ユンガス郡イルパナ区イルパナ 2006 年ラス・ニエベス祭.

音楽 CD/LP

- Kaoma. 1989. *Lambada*. CBS Records Inc.
- Los Kjarkas. 1981. *Canto a la mujer de mi pueblo*. Lauro y Cia. Ltda.
- Los Kjarkas. 1994. *A los 500 años*. MCB/ Discolandia Dueri & Cia. Ltda. (CDC-43).
- Los Kjarkas. 1998. *El Líder de los humildes*. Discolandia Dueri & Cia. Ltda.
(CD-14033).
- Los Kjarkas. 2001. *Lección de vida*. Lauro y Cia. Ltda. (LCD-0337).
- Luis Rico. 1992. *Lo mejor*. Discolandia Dueri & Cia. Ltda. (CD-13086).
- Luis Rico. 1996. *Luis Rico y su banda*. Discolandia Dueri & Cia. Ltda. (CD-13963).

- Luis Rico. 2002. *La saya afroboliviana*. Discolandia Dueri & Cia. Ltda. (CD-13742).
- Manuel Monroy Chazarreta "El Papirri". 2003. *Antojolía Vol.2*. Discolandia Dueri & Cia. Ltda. (CD-14120).
- Sayanta. 1996. *Más allá de Los Andes*. Inbofon Ltda. (IBC-30112).

著作・論文

- Aguirre Beltrán, Gonzalo. 1989. *Obra antropológica II- La población negra de México: Estudio etnohistórico*. Veracruz: Universidad Veracruzana, Instituto Nacional Indigenista, Gobierno del Estado de Veracruz, Fondo de Cultura Económica.
- Albó, Xavier. 2002a. "Bolivia: From indian and campesino leaders to councillors and parliamentary deputies." In Rachel Sieder ed. *Multiculturalism in Latin America: Indigenous Rights, Diversity and Democracy*. New York: Palgrave Macmillan.
- . 2002b. *Iguals aunque diferentes: Hacia unas políticas interculturales y lingüísticas para Bolivia*. La Paz: Ministerio de Educación, UNICEF, CIPCA.
- . 2011. "Interculturalidad y la nueva Ley Educativa." In CEBIAE ed. *Visiones plurales sobre el nuevo paradigma educativo boliviano*. La Paz: CEBIAE.
- Albó, Xavier/ Quispe Víctor. 2004. *Quiénes son indígenas en los gobiernos municipales*. La Paz: Plural Editores, CIPCA.
- Aliaga L., Julio/ Choque María Eugenia/ Yampara, Simón, Mamani R., Pablo/ Uño A., Liborio/ Ari M., Marina/ Portugal M., Pedro/ Martínez T., Anselmo/ Prada A., Raúl. 2006. *Asamblea constituyente y pueblos originarios*. La Paz: Jach'a Uru Indigenous Organization.
- Angola Maconde, Juan. 2001. "El Afrodescendiente en la Historia de Bolivia." *XIV Reunión Anual de Etnología 2000: Aportes indígenas: Estados y democracias*. La Paz: MUSEF. pp.497-505.
- . 2003 [1999]. *Raíces de un pueblo: Cultura afroboliviana*. La Paz: Producciones CIMA.
- . (comp.) 2008. *Comunidad Dorado Chico: Nuestra Historia*. La Paz: Traditions pour Demain.
- . 2010a. "Las raíces africanas en la historia de Bolivia." In Walker, Sheila S. ed. *Conocimiento desde adentro: Los afrosudamericanos hablan de sus pueblos y sus historias Volumen I*. La Paz: PIEB.

- . (comp.) 2010b. *Pueblo afroboliviano: Registro de saberes conocimientos, valores y lenguas*. Ministerio de Educación.
- . (comp.) 2012. *El habla afroyungueña: Cho, así jay hablamu, más vale qui oté nuay olvidá*. La Paz: FUNDAFRO.
- Ardaya Morales, Soledad. 2012. *La familia afroboliviana: Historia de un encuentro*. La Paz: Organización de Estados Iberoamericanos.
- Arias, Sebastián. (coord.) 2009. *Afrodescendientes: Una cultura de la resistencia*. Buenos Aires: La voz de los sin voz.
- Arnold, Denise Y./ Yapita, Juan de Dios. 2000. *El rincón de las cabezas: Luchas textuales, educación y tierra*. La Paz: Facultad de humanidades y ciencias de la educación- UMSA e ILCA.
- Arzáns de Orsúa y Vela, Bartolomé. 1965. *Historia de la Villa Imperial de Potosí, Tomo I, II*. Brown University Press.
- Ballivián, Martín M./ Calle, Mijhail F.. 2013. *Soy afroboliviano: Historia, testimonios e imágenes de mi cultura*. Cochabamba: Fundación Intercultural Martin Luther King.
- . 2014. *La saya afroboliviana: Conociendo “desde casa adentro y casa afuera” nuestra historiografía y saberes ancestrales*. Cochabamba: Fundación Intercultural Martin Luther King.
- Barragán, Rossana/ Cárdenas, Cleverth et al. 2009. *Fiesta popular paseña 3- Gran Poder: La morenada*. La Paz: UMSA-ASDI.
- Bridikhina, Eugenia. 1995. *La mujer negra en Bolivia*. La Paz: Ministerio de Desarrollo Humano.
- . 1997. “Coca, dinero o jornales (La situación económico social de los ex-esclavos en Nor Yungas segunda mitad del siglo XIX).” *El Siglo XIX: Bolivia y América Latina*. La Paz: Muela del Diablo Editores.
- Bridikhina, Eugenia et al. 2009. *Fiesta Popular Paseña 4- Fiesta cívica: Construcción de lo cívico y políticas festivas*. La Paz: UMSA-ASDI.
- Busdiecker, Sara. 2006. “We are Bolivians too: The experience and meaning of blackness in Bolivia”. Ph.D dissertation: University of Michigan.
- . 2009a. “Where blackness resides: Afro-Bolivians and the specializing and racializing of the African diaspora.” *Radical History Review, Issue 103*. Duke University Press. pp.105-116.

- . 2009b. "The emergence and evolving character of contemporary Afro-Bolivian mobilization: From the performative to the political." In Leith Mullings ed. *New Social Movements in the African Diaspora: Challenging Global Apartheid*. NY: Palgrave Macmillan.
- Cajías de la Vega, Fernando et al. 2009. *Fiesta Popular Paseña 2- Entrada folklórica universitaria: Historia protagonistas testimonios documentos*. La Paz: UMSA-ASDI.
- Canessa, Andrew. 2012. *Intimate Indigeneities: Race, Sex, and History in the Small Spaces of Andean Life*. Duke University Press.
- Carreras de Migliozi, María Teresa. 2002. La guitarra en la provincia de San Luis. Fondo Editorial Sanluisense, Gobierno de la Provincia de San Luis.
- CEMPROTAC. 2004. *Entre el encuentro y la búsqueda: Utopías y realidades desde el arte, la cultura, y la educación popular*. La Paz: CEMPROTAC.
- Córdova Eguivar, Eduardo/ Choque Aldana, Marlene/ Santisteban Nery, Benjamín. 2009. "Los caminos del cambio: Transformaciones en el sistema político boliviano, 2003-2008." In Eduardo Córdova et. al. *Poder y cambio en Bolivia 2003-2007*. La Paz: PIEB.
- Costas Arguedas, José Felipe. 1967. *Diccionario del Folklore Boliviano*. Sucre: Universidad Mayor de San Francisco Xavier de Chuquisaca.
- Crespo R., Alberto. 1995 [1977]. *Esclavos negros en Bolivia*. La Paz: Librería Editorial "Juventud".
- Crystal, David. 2001. *A Dictionary of Language*. Chicago. The University of Chicago Press.
- CSUTCB. 2006. *Nueva constitución plurinacional: Propuesta política desde la visión de campesinos, indígenas y originarios*. La Paz: CSUTCB.
- Cuenca, Arturo Pizarroso. 1977. *La cultura negra en Bolivia*. La Paz: Ediciones ISLA.
- Dangl, Benjamin. 2010. *El precio del fuego: Las luchas por los recursos naturales y los movimientos sociales en Bolivia*. Chicago: Haymarket Books.
- Delgado, José Luis. 2003a. "El mauchi: Ritual funeralio." *XV Reunión Anual de Etnología: Reflexiones en torno a la violencia*. La Paz: MUSEF. pp.115-119.
- . 2003b. "Bonifacio II Rey de los negros", "Reflexiones urbanas sobre el movimiento afroboliviano." *XVI Reunión Anual de Etnología: Patrimonio cultural*

- entre lo local y lo global*. La Paz: MUSEF. pp.173-175, 219-220.
- , 2003c. "La Raymundita se está casando: Testimonio de vida de una mujer afroboliviana." In *Certamen de ensayos sobre derechos humanos*. La Paz: Defensor del Pueblo.
- Do Alto, Hervé/ Stefanoni, Pablo. 2010. "El MAS: Las ambivalencias de la democracia corporativa" In Luis Alberto García Orellana/ Fernando Luis García Yapur et. al. *Mutaciones del campo político en Bolivia*. La Paz: PNUD.
- Durán Vacaflor, Eva. 1996. *Ahora no es tiempo de la esclavitud: La Saya*. La Paz: UMSA. Tesis de grado en Literatura.
- García Linera, Álvaro. 2005. *Estado Multinacional: Una propuesta democrática y pluralista para la extinción de la exclusión de las naciones indias*. La Paz: Editorial Malatesta.
- García Linera, Álvaro/ Chávez León, Marxa/ Costas Monje, Patricia. 2004. *Sociología de los movimientos sociales en Bolivia: Estructuras de movilización, repertorios culturales y acción política*. La Paz: Plural Editores.
- García Linera, Álvaro/ Tapia Mealla, Luis/ Prada Alcoreza, Raúl. 2007. *La transformación pluralista del estado*. La Paz: Muela del Diablo.
- Guardia Crespo, Marcelo. 1994. *Música popular y comunicación en Bolivia: Las interpretaciones y conflictos*. Cochabamba: Universidad Católica Boliviana.
- , 2008. "Culturas 'raleadas', viles recursos de exclusión social." *Punto Cero*, vol.13, No.17. Cochabamba: UCB. pp.45-51.
- Gutierrez Aguilar, Leoncio. 2004. *Del poder constituido a la reconstitución del poder: Necesidad histórica de la asamblea constituyente*. Oruro: Red de Movimientos Indígenas.
- Guzmán, Augusto. 1998. *Historia de Bolivia: 8va. edición actualizada*. Cochabamba: Los Amigos del Libro.
- Kafka Z, Jorge (comp.) 2004. *Asamblea Constituyente: Hacia un nuevo Estado Boliviano*. La Paz: Colegio de Politólogos.
- Kent, Allison D. 2001. "La identidad afroboliviana en Chicaloma, Sud Yungas." *XIV Reunión anual de Etnología: Aportes indígenas: Estados y democracias*. La Paz: MUSEF. pp.483-492.
- Klein, Herbert S. 1993. *Haciendas and Ayllus: Rural society in the Bolivian Andes in the Eighteenth and Nineteenth Centuries*. CA: Stanford University Press.

- . 2011. *A Concise History of Bolivia: Second Edition*. NY: Cambridge University Press.
- Lazarte R., Jorge. 2006. *Hacia un país moderno y democrático La Asamblea Constituyente: un nuevo comienzo*. La Paz: Plural.
- Leons, Madeline Barbara. 1998. "Stratification and pluralism in the Bolivian Yungas." In Norman E. Whitten Jr./ Arlene Torres ed. *Blackness in Latin America and the Caribbean Volume I*. Indiana University Press.
- Leons, William. 1972. *Dimensions of Pluralism in a Changing Bolivian Community*. Ph.D dissertation: Pennsylvania State University.
- Lipski, John M. 2008. *Afro Bolivian Spanish*. Iberoamericana-Vervuert.
- Llanos, Murillo José. n.d. *Festividad Religiosa de la Santísima Trinidad Señor Jesús del Gran Poder*. La Paz: Asociación de conjuntos folklóricos del Gran Poder.
- Machaca Benito, Guido C/ Ballivián Vásquez, Juan Carlos. 2016. *El pueblo afrodescendiente en Bolivia: De la clandestinidad a la visibilidad protagónica*. Cochabamba: FUNPROEIB Andes y CONAFRO.
- Maidana Rodríguez, Freddy Luis. 2004. *Taraqu: cuna de la morenada*. La Paz: Industrias Gráficas DRUCK srl.
- Mariaca Iturri, Guillermo/ Jemio Gonzales, Lucy/ Rocha Velasco, Omar/ Calatayud Criales, Oswaldo. 2010. *Fiesta Popular Paseña 5- Literatura y fiesta*. La Paz: UMSA-ASDI.
- Marien, Nele. 2003. "El neoliberalismo en Bolivia: Adiós al pequeño productor". La Paz, CIPCA.
(<http://www.cipca.org.bo/index.php/documentos/documentos-de-trabajo/documentos-de-trabajo/gestion-2003/el-neoliberalismo-en-bolivia-adios-al-pequeno-productor/detail>)
- Martínez Mita, María. 2012. *Conquista de derechos humanos por el pueblo afroboliviano: En la Asamblea Constituyente de 2006-2008*. Quito: Universidad Andina Simón Bolívar.
- Mendoza, David. 1992. *El negro no es un color, es una saya*. Gobierno municipal de La Paz, Bolivia.
- Mesa, José/ Gisbert, Teresa/ Mesa, Carlos D. 2003. *Historia de Bolivia: 5ta edición actualizada y aumentada*. La Paz: Editorial Gisbert.
- Miranda Castañón, Edmundo. 2007. *La danza folklórica y popular andina*. La Paz:

C&C Editores.

Montaño Aragón, Mario. 1992. "La familia negra en Bolivia." In Mario Montaño Aragón ed. *Guía etnográfica lingüística de Bolivia*. La Paz: Editorial Don Bosco.

----- . 2003. *Bolivia Danza: La Magia de las Danzas Bolivianas*. La Paz: Publicaciones Yachay.

Morales, José Agustín. 1929. *Monografía de las provincias de Nor y Sud Yungas (Departamento de La Paz)*. La Paz: Imp. Ayacucho.

Nova, Raymundo. (comp.) 2015. *Gramática afro boliviana*. La Paz: CONAFRO. (未刊行)

Paredes Candia, Antonio. 1997. *Zambo Salvito: 4ta edición*. La Paz: Ediciones ISLA.

Paredes, M. Rigoberto. 1981. *El arte folklórico de Bolivia*. La Paz: Librería Edicional POPULAR.

Pizarroso Cuenca, Arturo. 1977. *La cultura negra en Bolivia*. La Paz: Ediciones ISLA.

Portugal Ortiz, Max. 1978. *La esclavitud negra en las épocas colonial y nacional de Bolivia*. La Paz: Instituto Boliviano de Cultura.

Powe, Edward L. 1999. *The Black and Indigenous Lore of Bolivia, Peru & Ecuador*. Wisconsin: Armchair Travelers.

Quispe, Filemón. 1994. "Historia y tradición: La música afroboliviana." *Reunión anual de etnología 1993: Naciones y pueblos originarios, ecología y medio ambiente Tomo II*. La Paz: MUSEF. pp.155-184.

Rey, Mónica. 1997. "Movimiento Cultural Saya Afro-Boliviana en el contexto nacional e internacional." *XI Reunión anual de Etnología*. La Paz: MUSEF. p.423-426.

----- . 1998. *La saya como medio de comunicación y expresión cultural en la comunidad afroboliviana*. La Paz: UMSA. Tesis de grado en comunicación social.

----- . 1999. "La saya como herencia cultural de la comunidad afroboliviana" In Wálter Sánchez C. coord. *El tambor Mayor: Música y cantos de las comunidades negras de Bolivia*. La Paz: Centro Pedagógico y Cultural Simón I. Patiño.

Rivera Cusicanqui, Silvia. 2003. *Oprimidos pero no vencidos: Luchas del campesinado aymara y qhechwa 1900-1980*. La Paz: Ediciones Yachaywasi.

Robins, Nicholas A. 2005. *Cambio y continuidad en Bolivia: Etnicidad, cultura e identidad*. La Paz: Plural Editores.

- Rosenblat, Angel. 1945. *La población indígena de America*. Buenos Aires: Institución Cultural Española.
- Rossells, Beatriz/ Peres C., José Alejandro/ Aparicio A., Katherine et al. 2009. *Fiesta Popular Paseña 1- Carnaval paceño y Jiská Anata*. La Paz: UMSA-ASDI.
- Sánchez C., Wálter. 1994. "Aires nacionales de la tierra: Criollos, indios y mestizos en las imágenes auditivas de 'lo boliviano'." *Reunión anual de etnología 1993: Naciones y pueblos originarios, ecología y medio ambiente Tomo II*. La Paz: MUSEF. pp.77-96.
- Sánchez C., Wálter (coord.). 1999. *Tambor mayor: Música y cantos de las comunidades negras de Bolivia*. La Paz: Centro Pedagógico y Cultural Simón I. Patiño.
- Sassarego, Sandro. 2011. *Introducción al idioma afroboliviano: Una conversación con el awicho Manuel Barra*. La Paz: Plural Editores.
- Schavelzon, Salvador. 2012. *El nacimiento del Estado Plurinacional de Bolivia: Etnografía de una Asamblea Constituyente*. La Paz: Plural Editores.
- Sigl, Eveline/ Mendoza S., David. 2012. *No se baila así nomás Tomo I*. La Paz: Greco SRL.
- Soux, María Luisa. 2003. "El culto al Apóstol Santiago en Guaqui, las danzas de moros y cristianos y el origen de la morenada: Una hipótesis de trabajo." *XVI Reunión Anual de Etnología: Patrimonio cultural entre lo local y lo global*. La Paz: MUSEF. pp.151-171.
- Spedding, Alison. 1994. *Wachu wachu: Cultivo de coca e identidad en los Yunkas de La Paz*. La Paz: Hisbol/ CIPCA.
- . 1995. "Bolivia." In Minority Rights Group ed. *No Longer Invisible: Afro Latin Americans Today*. London: Minority Rights Publications.
- . 2009. "Los Yungas y el norte de La Paz: Cocaleros, colonizadores y afrobolivianos." In Denise Y. Arnold ed. *¿Indígenas u obreros? La construcción política de identidades en el Altiplano boliviano*. La Paz: UNIR.
- Taylor, Charles. 1994. "The politics of recognition." In Amy Gutmann ed. *Multiculturalism: Examining the Politics of Recognition*. Princeton University Press.
- Umezaki, Kahori. 2008. "Afro-Bolivians' cultural movement and the awakening of political consciousness: Reconstructing their identity with 'saya' songs." In

- Tomomi Kozaki, Naoya Izuoka, and Yuko Honya. *Civic identities in Latin America?* Tokyo: Keio University Press.
- Van Cott, Donna Lee. 2000. *The Friendly Liquidation of the Past: The Politics of Diversity in Latin America*. University of Pittsburgh Press.
- Vega Camacho, Óscar. 2007. “Reflexiones sobre la transformación pluralista.” In Alvaro García Linera/ Luis Tapia Mealla/ Raúl Prada Alcoreza. *La transformación pluralista del Estado*. La Paz: Muela del Diablo Editores.
- Vicepresidencia del Estado Plurinacional de Bolivia. (comp.) 2010. *Álvaro García Linera: Discursos/ análisis/ debate 2008-2010*. La Paz: Vicepresidencia del Estado.
- Walker Sheila S. (comp.) 2010. *Conocimiento desde adentro: Los afrosudamericanos hablan de sus pueblos y sus historias Volumen I*. La Paz: PIEB.
- Weddell, H. A. 1853. *Voyage dans le nord de la Bolivie*. Paris: Chez P. Bertrand, Libraire- Éditeur.
- Zambrana B., Amílcar. (coord.) 2014. *El pueblo afroboliviano: Historia, cultura y economía*. Cochabamba: FUNPROEIB Andes y CONAFRO.
- アンダーソン, ベネディクト. 2007. 『定本 想像の共同体: ナショナリズムの起源と流行』 書籍工房早山.
- ウォリス, ロジャー/ マルム, クリステル. 1997. 『小さな人々の大きな音楽: 小国の音楽文化と音楽産業』 現代企画室.
- 梅崎かほり. 2007. 「ボリビアにおけるアフロ系住民の民族アイデンティティ構築: 文化“サヤ”をめぐる動態の一考察」慶應義塾大学社会学研究科『人間と社会の探求』第64号.
- , 2008. 「多文化・多民族主義国家ボリビアの市民意識の動態: アフロ系住民の文化復権運動」関根政美・塩原良和 編『多文化交差世界の市民意識と政治・社会秩序形成』慶應義塾大学出版会.
- , 2010. 「歌と言葉とフィールドワーク: ボリビアとの10年を考える」清水透／横山和加子／大久保教宏 編著『ラテンアメリカ出会いのかたち』慶應義塾大学出版会.
- , 2014. 「多民族ナショナリズムとアフロ: 21世紀ボリビアの挑戦」『神奈川大学評論 77』神奈川大学. pp.126-135.
- エリクセン, トーマス・H. 2006. 『エスニシティとナショナリズム: 人類学的視点から』明石書店.
- 太田好信. 1998. 『トランスポジションの思想: 文化人類学の再想像』世界思想社.

- 遅野井茂雄. 2008. 「ボリビア・モラレス政権の『民主的革命』：先住民、社会運動、民族主義」遅野井茂雄／宇佐見耕一編『21 世紀ラテンアメリカの左派政権：虚像と実像』アジア経済研究所.
- 川田順造. 2001. 『無文字社会の歴史：西アフリカ・モン族の事例を中心に』岩波書店.
- 木村秀雄. 2004. 「中央アンデス（ペルー・ボリビア）：2 種類の先住民と先住民運動」青柳美智子編『国勢調査の文化人類学：人種・民族分類の比較研究』古今書院.
- キムリッカ, ウィル. 1998. 『多文化時代の市民権：マイノリティの権利と自由主義』晃洋書房.
- . 2012. 『土着語の政治：ナショナリズム・多文化主義・シティズンシップ』法政大学出版局.
- ギルロイ, ポール. 2006. 『ブラック・アトランティック：近代性と二重意識』月曜社.
- ゲルナー, アーネスト. 2000. 『民族とナショナリズム』岩波書店.
- 国立民族学博物館編. 2014. 『世界民族百科事典』丸善出版.
- 桜井厚. 2005. 『境界文化のライフストーリー』せりか書房.
- スミス, アントニー・D. 1999. 『ネイションとエスニシティ：歴史社会学的考察』名古屋大学出版会.
- ハージ, ガッサン. 2003. 『ホワイット・ネイション：ネオ・ナショナリズム批判』平凡社.
- 橋本和也. 1996. 「フィジーにおける民族文化の演出：新たな「観光文化」の可能性を求めて」山下晋司（編著）『観光人類学』新曜社.
- ファーヴル, アンリ. 2002. 『インディヘニスモ：ラテンアメリカ先住民擁護運動の歴史』白水社.
- ホブスボウム, エリック／レンジャー, テレンス. 1992. 『創られた伝統』紀伊國屋書店.
- 宮地隆廣. 2014. 『解釈する民族運動：構成主義によるボリビアとエクアドルの比較分析』東京大学出版会.
- 村上勇介／遅野井茂雄編著. 2009. 『現代アンデス諸国の政治変動：ガバナビリティの模索』明石書店.

8) ウェブページ⁴

CADIC (Centro Afroboliviano para el Desarrollo Integral y Comunitario) 公式

⁴ 明記のあるもの以外は 2017 年 2 月 1 日にアクセス確認済み。

<http://www.cadic.org.bo/>

Carnaval de Oruro 2012. L. Claudio Villca M. 2003.

<http://galeon.com/carnavaldeoruro/danzas/morenada.html>

CONAFRO (Consejo Nacional Afroboliviano) 公式

<http://www.conafro.org/>

国際連合反差別世界会議（一般財団法人アジア・太平洋人権情報センター）

<http://www.hurights.or.jp/archives/durban2001/>

ILO（国際労働機構）「独立国における原住民及び種族民に関する条約（第 169 号）」

http://www.ilo.org/dyn/normlex/en/f?p=NORMLEXPUB:12100:0::NO::P12100_ILO_CODE:C169

ボリビア共和国 1967 年憲法（1994-2002-2004-2005 改正版）

<http://pdpa.georgetown.edu/Constitutions/Bolivia/consboliv2005.html>

ボリビア多民族国憲法（2009 年）

http://www.oas.org/dil/esp/Constitucion_Bolivia.pdf

ボリビア多民族国国立統計局（INE）

<http://www.ine.gob.bo/>

http://geo.ine.gob.bo/cartografia/visualizador_controller/visualizador_i3geo#

ボリビア多民族国護民官事務局（Defensoría del Pueblo）

<http://www.defensoria.gob.bo/>

ボリビア多民族国防衛省：国旗について

<http://www.mindef.gob.bo/mindef/node/165>

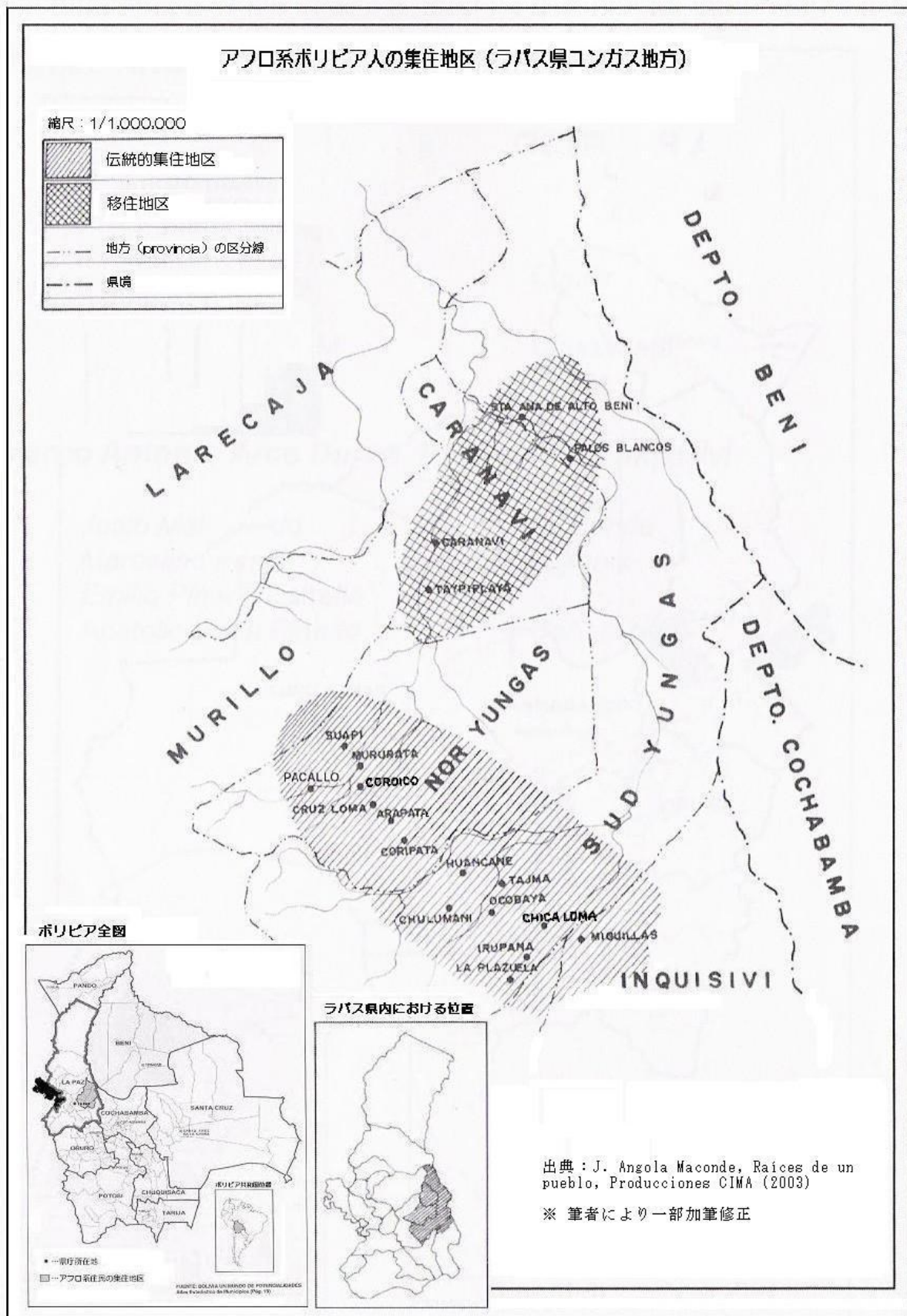
主論文目次

凡例.....	iv
序論 アンデス世界とアフロ系住民.....	1
第1節 問題の所在と本研究の目的	
第2節 本研究が論じる新たな「ネーション」とは	
第3節 先行研究の概括と本研究の位置づけ	
第4節 研究の方法および調査地と調査対象について	
第5節 本論の構成	
第一章 近代国民国家の形成とアフロ系住民.....	14
第1節 ボリビアの黒人奴隷制史	
1) 黒人奴隷の上陸	
2) 奴隷制初期：鉱山都市ポトシへ	
3) 奴隷制後期：ユンガスのアシエンダへ	
第2節 革命とナショナリズム	
1) 独立建国から革命まで	
2) ボリビア革命とナショナリズム	
3) ボリビアらしさの形成	
第3節 1994年憲法と多文化主義	
1) 同化政策への抵抗	
2) 「多民族・多文化」のボリビア：Bolivia multiétnica y pluricultural	
第4節 周縁化されるアフロ系住民	
1) センサスによる不可視化	
2) 他者としてのアフロ系住民	
3) 黒人性のステレオタイプ化	
第二章 アフロボリビアのサヤ文化運動.....	41
第1節 「国民音楽」にもの申す	
1) それはサヤではない！	
2) 「アフロボリビアのサヤ文化運動」の誕生	
3) 文化運動の展開	
第2節 ボリビア音楽界からの受容	
1) ロランド・カマチョ（放送関係者）の事例	
2) ルイス・リコ（音楽家）の事例	

3) リズム表記の訂正へ	
第3節 文化運動を超えて	
1) サヤの「国民音楽」化	
2) 政治性を帯びる運動	
第三章 村落部に根づく「われわれ」意識.....	74
第1節 ユンガスの「ネグロ（黒人）」	
1) 移民の地ユンガス	
2) 奴隷解放令と農地改革	
3) 生活の変化とアイデンティティ	
第2節 「われわれ」の文化サヤ	
1) サヤとは	
2) 歌われる日常と記憶	
3) 手段としてのサヤ	
第3節 共生する「われわれ」と「他者」	
1) 祝祭に見る異文化との共生	
2) 混淆的な「われわれ」	
3) 流行と祭りの変化	
第四章 都市で獲得される「われわれ」意識.....	114
第1節 「ネグロ」から「アフロ」へ	
1) アイデンティティの否定	
2) 「ネグロ」からの脱却	
3) 新しい「われわれ」の形成	
第2節 自尊心と集団的アイデンティティの醸成	
1) 歌詞による啓蒙	
2) 自尊心と集団意識の育成	
3) 参加者への影響	
第3節 明確化される「われわれ」と「他者」	
1) 「われわれ」らしさの模索	
2) 「他者」の目と「われわれ」	
3) 新しいサヤの創出と「伝統」化	
第五章 複数ネーション国家 (Estado Plurinacional) における「われわれ」.....	164
第1節 「ボリビア多民族国」の誕生	

1) 旧体制の崩壊	
2) 憲法制定議会と 2009 年新憲法	
3) 複数ネーションの国家へ	
第 2 節 政治的主体としてのアフロ	
1) 新政府と「アフロボリビア人」	
2) 先住民との連帯	
3) アフロボリビア人の社会組織	
第 3 節 より強固な「われわれ」を目指して	
1) 「先住性」の主張	
2) 「アフロボリビア語」をめぐって	
3) 誰が「われわれ」を代表するか	
結論 新たな「ネーション」としてのアフロ	220
第 1 節 各章のまとめ	
第 2 節 ボリビア多民族国における新たな「ネーション」のかたち	
第 3 節 今後の課題と展望	
謝辞	225
略年表 アフロボリビアの復権運動	226
参考資料	227

地図 ラパス県ユンガス地方



略年表 アフロボリビアの復権運動

	年代	目的・要求・出来事など	備考
① ②	1988 年 ～1995 年頃	アフロボリビアのサヤ文化運動（MOCUSABOL）結成 「アフロ文化をボリビア文化の一部として認めよ」 「サヤをカポラルとは完全に異なる個別のリズムであると認めよ」	MOCUSABOL によるマスコミへの働きかけ
		1994 年 第 1 期サンチェス・デ・ロサダ政権、憲法第 1 条に「多民族・多文化」主義を掲げる	
③	1997 年	「われわれが可視化されるような国勢調査を求む」 アフロ系住民独自の統計調査を実施	
④	2001 年	国連第 3 回反差別世界会議@ダーバン／準備会議@チリへの参加 ＜全国紙にアフロ関連の記事急増＞ ＜サヤの認知広まる＞※第二章参照	＝アメリカ大陸における他のアフロ系住民グループとの連帯
		「都市生活においてアフロ系住民の若者が差別を容認せず、社会の一員として自信をもてるようになること」	＝MOCUSABOL が発行した会員向けのテキストに記載された組織結成の目的（①も明文化）
⑤	2003 年 8 月	北ユンガスでアフロ系住民の集会「コチュナの宣言」 「アフロ系ボリビア人の、国家の政治・法律・政令や改革への参画が法的に認められること」	＝国家による「差別、不寛容と排除、経済的・社会的・政治的・文化的周縁化」の糾弾、③の明文化
		2003 年 10 月 第 2 期サンチェス・デ・ロサダ政権崩壊	
		2006 年 1 月 第 1 期モラレス政権発足	
	2006 年 2007 年 4 月	憲法制定議会に提案書を提出（⑤の明文化） 「サヤは、その使用と表現と技術が世代間で伝承されてきたことから、アフロボリビア文化に属する」	ラパス市より認定書の発行（①②の達成）
		2009 年 2 月 新憲法発布 2009 年 3 月 「ボリビア多民族国」に国名変更	
	2009 年 2 月 2009 年 12 月	ボリビア多民族国における「ネーション」として、憲法で承認、保障される アフロ系初の国会議員の輩出	憲法第 3 項、32 項、100 項、395 項で「アフロボリビア人」の権利保障（⑤の達成）
		2010 年 1 月 第 2 期モラレス政権発足	
	2010 年 10 月 2011 年 6 月 2011 年 9 月	反人種差別法（Ley N°045）の成立 サヤがボリビアの無形文化遺産に認定される 第 1 回アフロボリビア全国会議開催 →アフロボリビア全国審議会（CONAFRO）発足	（④の達成へ） （①②の完全達成）
	2012 年 11 月	センサス実施：自己定義の項目に“afrobolivianos”の選択肢が追加される	（③の達成）
		2015 年 1 月 第 3 期モラレス政権発足	
	～2015 年	「アフロボリビアの教育要綱」完成 上院・下院・県議会 合わせて 4 人の議員を輩出	（④の達成へ）